令和5年度　徳島県立鴨島支援学校「学力向上実行プラン」

徳島県立鴨島支援学校長　　大久保　民枝

1　学力向上検討委員会構成

学　力　向　上　検　討　委　員		
	職名・校務等担当名	氏名
管理職	校長 教頭	大久保　民枝 掛田　千津子
学力向上推進員	教務課長	中　　史治
委員	主幹教諭 中・高等部長 小学部教務主任 中・高等部教務主任	藤原　　美咲 近藤　美和子 北條　　佳子 上田　　利沙

2　学力・学習状況における現状分析、目標等

【3つの視点】

（1）基礎的・基本的な知識・技能の習得

（2）知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成

（3）主体的に学習に取り組む態度の育成

（小　学　部　）　幼児児童生徒の状況			
よさ	昨年度、児童生徒の実態や配慮事項等の共通理解を図り、児童が心理的にも環境的にも安心安全に学校生活を送り、その力を発揮できる基盤作りに取り組んだ。また、一人一人の実態から中心的課題を導き出し、個に応じた目標設定や授業作りに取り組み、特にコミュニケーション面で大きな成長が見られた。ICTの活用によるオンライン学習も広がりを見せ、個別最適な学びと児童同士や学校の教員、地域との交流を可能にした。コロナ禍で活動に制限がある中でも学びを止めず、オンラインで様々な活動にチャレンジしてきた。	課題	児童数がさらに少なくなり、学校に登校する児童は1名となった。小学部5名の学びの場は学校、家庭、病棟となり、学校での集団の形成がますます難しくなった。ICTによるオンラインでの児童同士や児童と教員の活動は盛んになったが、限られた時間であり、対面での関わりは難しく、社会性の育成を育むための集団活動の充実が必要である。しかし、本校では児童数も少なく教員との関わりが多くなり、関わる人が限られる傾向にある。社会へのステップを考えると、同年代や地域の人との関わりの中で経験を積むことも必要である。アフターコロナで制約が減ったこの機会に感染症に気をつけながらも様々な人々との関わりができる機会を保障していくことが当面の課題である。

具体的目標（目指す子どもの姿）	成果指標	達成状況
・学校全体で取り組む竹水石けんの製作を通して、地域との交流を深めることができる。	目標に対する達成状況について、教員にアンケートをとり、「達成できた」、「どちらかというと達成できた」の評価を合わせて70%以上で達成とする。	評価

具体的方策（教員の取組）	取組指標	取組状況
・児童生徒のできることを活かして竹水石けんの製作に取り組み、役割分担して製品を作る。 ＊中間期の見直し	・地域の人の支援を受けて、全校で協力して竹水石けんを製作し、地域とのつながりを深めることができる。	
達成状況を踏まえた改善事項		

（中・高　等　部）幼児児童生徒の状況			
よさ	学部集会や学部行事に向けての準備や当日の係等において、自分の役割を果たすことができている。また、校外の方と直接交流することが増え、その活動においても自分の役割を果たすことができている。	課題	生徒数の減少、障がいの多様化により、生徒同士でコミュニケーションを図ることが難しい。集団での活動や校外の方との交流活動を増やし、一人一人がさらに様々な自分の役割を果たしていくことやコミュニケーション力をつけていくことが必要である。

具体的目標（目指す子どもの姿）	成果指標	達成状況
・学校全体で取り組む竹水石けんの製作を通して、地域との交流を深めるとともに、コミュニケーション能力を高めることができる。	目標に対する達成状況について、教員にアンケートをとり、「達成できた」、「どちらかというと達成できた」の評価を合わせて70%以上で達成とする。	評価

具体的方策（教員の取組）	取組指標	取組状況
・児童生徒のできることを活かして竹水石けんの製作に取り組み、役割分担して製品を作る。 ＊中間期の見直し	・地域の人の支援を受けて、全校で協力して竹水石けんを製作し、地域とのつながりを深めることができる。	
達成状況を踏まえた改善事項		